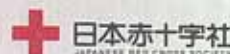


広島県赤十字有功会

— 会報 (第4号) —



年頭のごあいさつ

広島県赤十字有功会

会長 宇田 誠

有功会の会員の皆様には、謹んで新春のご祝詞を申し上げます。昨年、国内では東北地方の地震による災害や痛ましい事件・事故が多発いたしました。国外においては、中国四川省の大地震やミャンマーにおけるサイクロン被害などにより、多くの命や財産が一瞬のうちに失われた悲しい年でもありました。

このように暗い話題が多いなか、日本人四人がノーベル賞を受賞した快挙は、国民に大いなる勇気と自信を与えてくれました。また、県内におきましても、戦後の広島県民を元気づけてくれた広島市民球場が五十年の歴史に幕を降ろし、今春、新球場がいよいよオープンすることとなりました。これらを契機に県内の経済が発展いたしますことを願ってやみません。

本年丑年は、「漢書」律曆志によりますと、芽が種子の中で未だ伸びることができない様子を表すとされています。これはまさに現在の日本の厳しい経済状況を表しているといえますが、一方で牛の一步一步着実に歩を進める姿は、我々日本人がこの厳しい状況にいかに向かうべきかを示唆しているようにも思えます。

さて、本会は、会員相互の親睦を図ることはもとより、日本赤十字社広島県支部の行う赤十字活動に全面的に協力し、赤十字精神の普及とその事業の推進に寄与することであり、その運営に携わってまいりました役員につきましては、昨年七月十四日に開催された

平成十七年九月に発足した本会の会員数は、今年度三十九法人・個人が新たに入会し、いまでは百九十四法人・個人となりました。これもひとえに赤十字運動並びに本会の主旨へのご理解のたまものと厚く感謝いたしております。引き続き会員の皆様からの呼びかけで、支援の輪が更に広がることを期待しております。なお、本会の発会から三年間にわたり、その運営に携わってまいりました役員につきましては、昨年七月十四日に開催された



有功会総会におきましてご高齢のためご辞退された一名を除き、引き続き、役員としてご承認いただきました。役員一同、新たな気分で有功会活動に邁進してまいりますので、会員各位の更なるご理解とご支援をよろしくお願いたします。

本年が、景気回復の萌しが見え、明るく希望に満ちた平和な、そして会員の皆様方にとっても良き一年となりますよう祈念いたしましたして新年のご挨拶といたします。

広島県赤十字有功会 役員名簿 (敬称略)

(平成二十年七月十四日選出)

役職名	名前	現職(法人) 居住地(個人)
会長	宇田 誠	株式会社広島銀行 特別顧問
副会長	深山 英樹	広島ガス株式会社 代表取締役社長
副会長	佐竹 利子	株式会社サタケ代表
副会長	古川 浩	広島市中区
副会長	森本 弘道	株式会社もみじ銀行 特別顧問
常任委員	小川 壽	広島市南区
常任委員	齋藤 法明	宗教法人法灌寺 代表役員
常任委員	山根 祐治	株式会社サンポール 会長
監事	佐藤 賢市	福山市
監事	筒井 數三	株式会社シンコー 取締役会長

平成二十年事業実施経過報告

● 総会の開催

● 役員会の開催

七月十四日(月)

十四時

於 広島市中区

出席者 七名

● 総会の開催

七月十四日(月)

十五時

於 広島市中区

出席者 二十六名

講演 (総会終了後)

「不老長寿考」

懇親会 (総会講演終了後)

出席者 二十一名

● 全国有功会組織との連携等

日赤紺綬有功会

会長協議会総会出席

十月三十日(木)～三十一日(金)

於 長野市県町

出席者 宇田 誠会長

支部より

中川日出男事務局長出席

● 仲間づくり運動の推進

有功章受章者へ入会案内送付

銀色有功章 九十五件

金色有功章 四件

感謝状 一件

● 赤十字事業に関する資料の提供

● 広島県赤十字有功会

会報第四号発行

● 赤十字新聞の発送

● インターネットを通じた広報



平成二十年度日赤紺綬・有功会会長協議会総会

日時

十月三十日(木)十四時から

十月三十一日(金)十三時まで

場所

「ホテル国際21」長野市県町

日程

● 第一部

● 第二部

● 第三部

● 第四部

● 第五部

● 第六部

● 第七部

● 第八部

● 第九部

● 第十部

● 第十一部

● 第十二部

● 第十三部

● 第十四部

● 第十五部

● 第十六部

● 第十七部

● 第十八部

● 第十九部

● 第二〇部

● 第二一部

● 第二二部

● 第二三部

● 第二四部

● 第二五部

● 第二六部

● 第二七部

● 第二八部

● 第二九部

● 第三〇部

● 第三一部

● 第三二部

● 第三三部

● 第三四部



広島県赤十字有功会 会則

第1条 名称

第2条 事務所

第3条 目的

第4条 事業

第5条 組織

第6条 入会及び退会

第7条 役員

第8条 役員会の職務

第9条 役員会の任期

第10条 役員会の招集

第11条 総会の招集

第12条 幹事の職務

第13条 経費

第14条 会費

第15条 会計年度

第16条 附則

第17条 附則

第18条 附則

第19条 附則

第20条 附則

第21条 附則

第22条 附則

第23条 附則

第24条 附則

第25条 附則

第26条 附則

第27条 附則

第28条 附則

第29条 附則

第30条 附則

第31条 附則

第32条 附則

第33条 附則

第34条 附則

第35条 附則

第36条 附則

第37条 附則

第38条 附則

第39条 附則

第40条 附則

広島県赤十字有功会 慶弔規定

第1条 慶弔の表示

第2条 慶弔の表示

第3条 慶弔の表示

第4条 慶弔の表示

第5条 慶弔の表示

第6条 慶弔の表示

第7条 慶弔の表示

第8条 慶弔の表示

第9条 慶弔の表示

第10条 慶弔の表示

第11条 慶弔の表示

第12条 慶弔の表示

第13条 慶弔の表示

第14条 慶弔の表示

第15条 慶弔の表示

第16条 慶弔の表示

第17条 慶弔の表示

第18条 慶弔の表示

第19条 慶弔の表示

第20条 慶弔の表示

第21条 慶弔の表示

第22条 慶弔の表示

第23条 慶弔の表示

第24条 慶弔の表示

第25条 慶弔の表示

第26条 慶弔の表示

第27条 慶弔の表示

第28条 慶弔の表示

第29条 慶弔の表示

第30条 慶弔の表示

第31条 慶弔の表示

第32条 慶弔の表示

第33条 慶弔の表示

第34条 慶弔の表示

第35条 慶弔の表示

第36条 慶弔の表示

第37条 慶弔の表示

第38条 慶弔の表示

第39条 慶弔の表示

第40条 慶弔の表示

日韓青少年赤十字相互交流事業について

広島県支部は、7月30日から8月14日にかけて、大韓赤十字社大田広域市忠清南道支社の青少年赤十字メンバーとの交流事業を実施しました。

この事業は歴史的、地理的に緊密な関係がある両国の青少年赤十字メンバーが、交流の機会を通じて、お互いの生活習慣や、歴史・文化に学びながら友情を深めることを目的として1991年から実施されており、今年で18回目となります。

7月30日から8月5日まで、韓国青少年赤十字メンバーが広島を訪問。韓国メンバーは、広島県内の赤十字施設や平和記念公園の見学、ホームステイを体験。また、1泊2日で広島県内から集まった、たくさんの青少年赤十字メンバーと交流を図り、「友好と平和」について考えた後、平和を願って一緒に千羽鶴を折りました。願いを込めた千羽鶴は、平和記念公園に



国際交流キャンプの様子

ある「原爆の子の像」に捧げられました。その後、8月8日から14日まで、広島県の青少年赤十字代表団が韓国を訪問。

韓国の

赤十字施設や独立記念館への訪問、ホームステイ、国際交流キャンプへの参加など多彩なプログラムを体験しました。国際交流



千羽鶴を捧げる韓国青少年赤十字メンバー

キャンプでは、韓国をはじめタイ、マレーシア、インドネシアなどその他各国の青少年赤十字メンバーが一堂に会し、交流を図りました。日本のメンバーは、赤十字や青少年赤十字の活動が世界中で行われていることを実感し、多くの仲間がいることを非常に喜んでる様子でした。

この事業に参加した日本のメンバーは、韓国で出会った多くの人々の優しさに感動し、言葉が通じなくても心は通じ合えることを学びました。

参加したメンバーからは、「この大切な出会いを一生忘れたくない。このプログラムを通して、多くのことを学び、視野も広がった。これからは、その学んだことを生かし活動を行っていききたい。また、青少年赤十字の「気づき、考え、実行する」という態度目標と感謝の気持ちを忘れずにいたい。」という感想が寄せられました。

コレラの蔓延するジンバブエに県支部職員を派遣

南部アフリカに位置するジンバブエでは、昨年11月上旬からコレラが大発生しています。極度のインフレなど経済の混乱が続く国内情勢も合わせ、2008年末の時点で、同国のコレラによる死者は1,600人を超え、30,000人以上が感染するという深刻な事態に陥っています。この状況に対し日本赤十字社では、国際赤十字との協力のもと、基礎保健を中心とする仮設診療所（ERU）を開設するなどの緊急医療保健支援を行っています。

昨年12月18日から日本赤十字社が派遣した第1陣の専門家チームは、同国の首都ハラレ北西部を中心に、スペインやフランスなど各国の赤十字社と協力して患者に対する治療をおこなうほか、現地医療機関の支援などを継続しています。

広島県支部では、これらの活動を支援するため、第2陣として職員1名を本年1月10日から現地に派遣しました。同職員は約1ヵ月間、国際赤十字や現地赤十字ならびに関係機関との連絡調整業務を行い、医療チームをサポートします。

なお、これまで県支部では、2004年12月26日に発生したインドネシア・スマトラ島沖地震に際し、現地連絡調整員や専門家チームの一員として職員2名をそれぞれ1ヵ月間現地に派遣しました。

厚生労働大臣感謝状等贈呈式を開催

平成20年度広島県赤十字有功会総会の席上、贈呈式を開催しました。

これらの表彰は、日本赤十字社の事業のため、多額の資金を寄せられた方々に対し、国及び日本赤十字社から贈られるものです。

当日は、該当する77の個人・法人のうち7個人・法人が出席し、城納一昭副支部長（副知事）から、それぞれ紺綬褒章、厚生労働大臣感謝状、感謝状、金色有功章、銀色有功章が贈られました。

受章（賞）者数の内訳は次のとおりです。

【紺綬褒章】

2件（個人2件）

【厚生労働大臣感謝状】

9件（個人8件、法人1件）

【日本赤十字社感謝状】

11件（個人8件、法人3件）

【金色有功章】

17件（個人12件、法人5件）

【銀色有功章】

38件（個人12件、法人26件）

赤十字海外研修旅行に参加して

会員 和田 藍子

「赤十字の創始者 アンリー・デ・ユナンゆかりの地めぐりと赤十字からの救済者 マルセル・ジュノー博士に感謝の旅 平和巡礼」は平成二十年十月四日から十日間で行われ、有功会・奉仕団・青少年赤十字賛助奉仕団等から十二名が参加しました。

今回の旅は、赤十字にゆかりの深いスイスをはじめ、フィンランドやイタリアを訪ねるというものでした。まず、フィンランド・ヘルシンキで北欧の森と湖を訪れた後、スイス・チューリッヒでは、アンリー・デ・ユナンのお墓にお参りし、アンリー・デ・ユナン終焉の地ハイデンに向かい、記念館・記念公園などを訪問しました。ジュネーブではマルセル・ジュノー博士の墓参りや、国際赤十字・赤新月社連盟を訪問するなど赤十字ゆかりの地を巡った後、アルプス最高峰のモンブランへ向かいました。山頂からの大パノラマを展望後、赤十字思想発祥の地イタリア・ソルフェリーノへ移動。イタリア赤十字博物館、ソルフェリーノの丘、納骨堂などをめぐり、ベニス、ミラノを訪れるという多彩な行程でした。

広島の人と呼ばれるジュノー博士のお墓へは、原爆投下直後の博士の行動を知った広島市立国泰寺中学校（青少年赤十字加盟校）全校生徒が心をこめて作ったという千羽鶴をお供えし、感謝の

意を捧げました。

赤十字の歴史と活動を物語るそれぞれの場所、現地の人との交流・出会い、博物館に展示されていた資料、絵画、馬で引いたという黒光りする工夫の凝らされた木製の救急車など、より深く多くのことを心に刻むことができました。

国際赤十字・赤新月社連盟でみた、イギリスのロック歌手の歌声にのせて赤十字活動を紹介する映像に、人の素晴らしさ、何事も人あつてこそと実感し、赤十字にかかわることができてよかったと、心の底から感銘を受けました。また、同行の皆さんの温かい笑顔や気遣いが何よりもうれしく、楽しく旅を終えることができました。ことに感謝いたします。ありがとうございました。



会員動向（平成二十年十二月末日現在）

〔個人〕六十二名 〔法人〕百三十二社 〔計〕百九十四会員

平成二十年度新規会員紹介

（ご入会いただき、ありがとうございます。）（敬称略）

- 個人（九名）
- 植田 ユキエ（広島市中区）
 - 海原 妙子（東広島市）
 - 木曾 昭光（尾道市）
 - 上田 克己（呉市）
 - 今井 俊正（府中市）
 - 中谷 ミツコ（東京都中野区）
 - 西田 亀人（広島市安佐北区）
 - 佐々木千鶴子（広島市中区）
 - 荒木 泰三（府中市）

法人（三十社）

- 成和産業株式会社（広島市西区）
- 榎田機工株式会社（呉市）
- 安森機工株式会社（広島市中区）
- 広島特殊織物株式会社（広島市安佐南区）
- 賀茂鶴酒造株式会社（東広島市）
- 日成建設株式会社（広島市中区）
- 株式会社共同海運（呉市）
- 株式会社エイワン（広島市中区）
- 土井木工株式会社（府中市）
- 呉市衛生興業株式会社（呉市）
- 成和温調株式会社（東広島市）
- 海生産業株式会社（呉市）
- 玉力汽船株式会社（呉市）
- 極東興和株式会社（広島市東区）
- 岡田敏彦税理士事務所（広島市中区）
- 株式会社東洋クリナー（広島市西区）
- 株式会社池久保電工社（広島市西区）
- 真志田建材株式会社（広島市西区）
- 有限会社ホソイシ（呉市）
- 広島バス株式会社（広島市中区）
- 佐伯中央農業協同組合（廿日市市）
- 株式会社中国新聞社（広島市中区）
- 広島市信用組合（広島市中区）
- 日本基準寝具株式会社（広島市安佐南区）
- 株式会社小川（尾道市）
- 株式会社中電工（広島市中区）
- 宗教法人法藏寺（広島市西区）
- 有限会社元廣建築設計事務所（尾道市）
- 富士電機システムズ株式会社（広島市中区）
- 西日本支社中国支店（広島市中区）
- 医療法人社団八千代会八千代病院（安芸高田市）

（計報）ご冥福をお祈りいたします。大吞憲太郎様（府中市）二十年二月

平成二十一年2月発行

発行者 広島県赤十字有功会
 発行所 広島県広島市中区千田町2-5-64
 730-0052 日本赤十字社広島県支部内
 電話 (082) 241-8811

<http://www.hiroshima.jrc.or.jp/yukokaitop.htm>

【寄稿のお願い】

広島県赤十字有功会会報は、会員の皆様と共につくる会報をめざしています。会員の皆様からのご寄稿をお願いいたします。俳句、短歌、詩、エッセー、旅行記、写真、絵などなど、ぜひ、お寄せください。また、ご意見、ご要望などお聞かせください。